

地域活性化のための近代化産業遺産活用ワークショップの活動報告

群馬県立高崎工業高等学校 学生会員 ○西川 大樹
 群馬県立高崎工業高等学校 正会員 西尾 敏和

1. 本活動の趣旨及び目的

近代化産業遺産として価値の高い富岡製糸場と歴史的街並みに建造物などが群馬県富岡市（以下富岡市と記す）に点在している。このような文化財の保全及び活用を富岡市の都市計画に反映するために、「歴史的文化遺産を保全及び活用した住民参加のまちづくり」の推進を富岡市に提案した。地域振興策の一環として、高大地域連携による「地域活性化のための近代化産業遺産活用ワークショップ」を実施した。ワークショップでは富岡市を事例とした近代化産業遺産を保全及び活用した住民参加のまちづくりの疑似体験を行った（表－1参照）。ワークショップの成果を科学技術教育のみならず、まちづくりや観光等へ活用する。

表－1 ワークショップの内容（筆者作成）

| 月日 | 内容 | 時間 | プログラム |
|----------|--------------------------|-------------|--|
| 9月13日（日） | 歴史的街並み及び富岡製糸場の見学と講演（28名） | 10:00～10:30 | 開会式 （「まちかど遊YOUプラザ」） |
| | | 10:30～11:30 | 徒歩で歴史的街並みの見学 （都市計画課職員による案内） |
| | | 11:30～12:30 | 昼食 |
| | | 12:30～13:00 | 徒歩で富岡製糸場まで移動 |
| | | 13:00～14:00 | 富岡製糸場の見学 （世界遺産推進課職員による案内） |
| | | 14:10～15:10 | 富岡製糸場の食堂にて講演 「富岡製糸場の歴史的価値」 今井幹夫 （富岡製糸場総合研究センター所長） |
| 9月20日（日） | 講演とグループディスカッション（23名） | 10:00～10:40 | 講演「富岡市の都市計画について」 （都市計画課） |
| | | 10:50～11:30 | グループディスカッション事前学習 （西尾敏和） |
| | | 11:30～12:30 | 昼食 |
| | | 12:30～13:00 | 徒歩で「まちかど遊YOUプラザ」まで移動 |
| | | 13:00～15:00 | グループディスカッション （2グループに分かれて実施） |
| | | 15:00～15:10 | 閉会式 |



写真－1 歴史的街並みの見学（参加者撮影）



写真－2 富岡製糸場の見学（参加者撮影）

2. 本活動の内容

（1）第1回目 9月13日（日）

富岡製糸場周辺の中心市街地にある建造物など、歴史的街並みの見学を行った。明治から大正、昭和の初め頃に建てられた建造物が数多く現存していた（写真－1参照）。富岡製糸場では生糸の原料である繭を保管する「東・西繭倉庫」、煮沸した繭から生糸を取り出して巻き取る「繰糸場」、富岡製糸場の創業当時のフランス人技術者ポール・ブリュエナの宿舎

「ブリュエナ館」など、富岡製糸場の敷地内の見学をガイドの案内により行った（写真－2参照）。一般開放されていない富岡製糸場の食堂にて、「約100年間の操業で生糸生産量が約80倍増加したこと」、「富岡製糸場の建物がフランスと我が国の特徴を程よく採り入れて生糸生産に適していること」、「富岡製糸場で製糸技術を学んだ工女により全国各地へ技術が伝えられたこと」など、富岡製糸場の歴史的価値について今井幹夫所長の講演を聞いた。

キーワード 地域活性化, 近代化産業遺産, ワークショップ, 富岡市

連絡先 〒370-0046 群馬県高崎市江木町700 群馬県立高崎工業高等学校 TEL027-323-5450



写真-3 富岡市都市計画課の講演 (参加者撮影)

写真-4 グループディスカッション (参加者撮影)

表-2 ワークショップの成果 (成果の活用面に向けた内容, 筆者作成)

| | 観点 | 問題点 | 課題 | 課題に対する解決策 | 解決策の将来性(展望) |
|---|-------|---|---|---|---|
| ① | 普遍的価値 | 国指定史跡や重要文化財などの文化財の登録は地域生活を制約する。 | 文化財の登録と地域生活とを関連づける。 | 市民は文化財の登録による不便な地域生活をする覚悟が必要である。 | 市民が今までと同じ地域生活を望むならば文化財の登録の必要性を再検討すべきである。 |
| ② | まちづくり | 行政と市民の間に意思疎通があまりない。 | 世界遺産を地域でどのように活用していくかを明確にして、官民一体となったまちづくりを進める。 | 行政も市民も世界遺産が目的なのかまちづくりが目的なのかを明確化する。市民が自発的に行動する体制を作る。市民だけでは難しいため、行政の政治力、トップ力の非常に強い意思が必要である。 | 市民は仮に地域生活が不便であっても何もしないのが一番楽である。ところが放っておくと「ゆでがえる状態」になる。行政は誘導、規制しか出来ないため、市民にどれだけ熱意と行動力があるのかが非常に重要である。 |
| ③ | 観光 | 群馬県の伊香保や草津の観光地に行く前に富岡へ立ち寄る観光客は富岡製糸場と駐車場を往復するだけで十分満足してしまう。 | 富岡製糸場を核とした観光地を整備する。 | 富岡だけでなく安中、下仁田、高崎を巻き込み西毛地区全体としてその中にある観光資源を結び付けていく。 | 富岡製糸場のみで観光客を集めようとするならば魅力のない観光地が出来上がる。 |

(2) 第2回目 9月20日(日)

「世界遺産登録を目指すために土地区画整理事業を含めたまちづくり計画を見直したこと」、「景観行政団体に移行して景観を活かしながら街並みを整備すること」、「歩行者道の確保と安全性の確保・電線類の地中化・官民の協力などがまちづくりの課題であること」など、富岡市の都市計画について講演が行われた(写真-3参照)。2グループに分かれて、それぞれのグループで自己紹介・リーダーや書記を決定した後、ディスカッションを行った(写真-4参照)。富岡製糸場の世界遺産登録に向けて市民の盛り上がりは今ひとつ足りないため、体験型の施設にして観光客を呼ぶなどの議論が繰り広げられた。ディスカッション後の全体発表・質疑では、世界遺産を核としたまちづくりは非常に分かりやすいが方向性を間違えると観光開発になることなどが参加者から挙げられた。ワークショップを通じて、高校生、大学生、地域住民はそれぞれ単体では動きにくい。ところが、三者の連携により地域貢献の実現可能性が高くなることを改めて認識することが出来た。高大地域連携により、地域住民を含めて、高崎工業高等

学校の生徒と、前橋工科大学の学生との連携を強めていくきっかけをつくることが出来た。

3. 本活動の成果

ワークショップでは見学や講演を聴くことにより、富岡製糸場及び富岡市のまちづくりの現状を肌で感じることができた。グループディスカッションを行い、一人では気づかない課題に気付いた。新しい発想を得ることにより、実現性のある推進策(表-2参照)をつくりあげることが出来たのは有意義であった。富岡市内では、過去に多くの団体や市民が中心となった講演会・シンポジウムが開催されてきた、ところが、なかなか先へ進んでいない。ワークショップの成果を科学技術教育のみならず、まちづくりや観光等へ活用していきたい。

参考文献

1) 高大地域連携「地域活性化のための近代化産業遺産活用ワークショップ」活動報告書, 群馬県立高崎工業高等学校土木科課題研究まちづくり班, 2009年11月
本活動は(社)土木学会学術振興基金によるものである。